

特集

『にいがたの教育情報』は

何を発信してきたか

36年間、130号の特集をふり返る

本号は今回の発行で130号を迎えることになりました。1983年1月に創刊号を発行以来、36年間、途中で年四回から三回発行にはなりましたが、休むことなく発行を続けてきました。

1984年12月2日、「新潟から日本の教育をみる」をスローガンに掲げ会員制研究所として発足しました。研究所が会員制にこだわったのはすべての団体から独立して、会費、個人の寄付によって運営されるべきだとする考え方によるものです。

すでに『研究所通信』でもお知らせの通り、現在の年三回発行も危ぶまれる事態になりました。今後のことについては改めて会員の皆さんからご意見をいただいで検討をすることになりますが、この機会に『にいがたの教育情報』のこれまでの歩みをふり

返つてみたいと思います。

研究所の機関誌『にいがたの教育情報』は創刊号から一貫して毎号、会員、全国の研究者の方々のご協力を得て一本以上の特集を企画、編集してきました。その目的は「新潟から日本の教育を考える」とでした。

いま節目の雑誌の発行にあたり、いくつかの新潟の教育課題をテーマに特集をふり返つてみたいと思います。この作業を通じて何が達成され、何が足りないのか、改めて検証することでもあります。したがってこの作業は新潟から、36年間何を発信してきたかが問われることでもあります。

このささやかな企画から教訓を得て、新たな取り組みを始めたいと考えています。会員の皆さんや読者の皆さんのご意見をお願いいたします。

にいがた県民教育研究所所員一同